

令和 4 年 5 月 9 日現在

機関番号：24501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02509

研究課題名(和文) 大衆旅行時代におけるロマン主義精神の継承 湖水地方の観光と文化的景観の変容

研究課題名(英文) Inheriting the Romantic Spirit in the Age of Mass Tourism--The Transformation of the Cultural Landscape of the Lake District

研究代表者

吉川 朗子 (Yoshikawa, Saeko)

神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：60316031

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、鉄道・自動車の発達による旅行の大衆化と都市化や戦争による人々の田園観・国家意識の変容の時代を通して、ワーズワスが湖水地方の文化的景観に与えた影響力を検証したものである。ワーズワスの旅の美学が初期の自動車旅行者たちの移動感覚に大きな影響を与えたこと、第一次世界大戦がワーズワスの再評価をもたらし、湖水地方を文化的遺産として保護しようとする運動に繋がったこと、戦間期の自動車の普及が逆説的にロマン主義的な徒歩主義を再生させたことなどを検証した。ロマン主義的精神は、景観や自然環境との関わり方、旅行や文化遺産などに対する現代的価値観に関して、様々な形で礎を築いてきたことが実証された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会経済・価値観が激変し、ロマン主義への反発としてモダニズムが台頭した20世紀前半にロマン主義精神はいかに継承されたかを探求した点に本研究の意義がある。ロマン主義精神の商品化・大衆化の側面は否めないが、旅の個人主義と大衆・民主主義、景観保護と観光開発、公共の価値と地域住民の権利など、景勝地が現在抱える諸問題の様々な立場に対して、ワーズワスの言説が影響を与えていることも明らかになり、ロマン主義精神の多面的な波及力が浮き彫りになった。研究成果を単著にまとめ英国の出版社から発表できたことには大きな学術的意義があり、国内外の4つの団体から依頼されて研究成果を社会に還元できたことにも意義があるだろう。

研究成果の概要(英文)：This research project explored Wordsworth's tenacious influence on the cultural landscape of the Lake District through the age of popular tourism promoted by railways and motorcars, and the transformation of people's view of the countryside and national heritage due to urbanization and war. It revealed how Wordsworth's aesthetics of travel had a major impact on the earliest motorists; how the First World War connected Wordsworth's patriotic passion with his wish to protect the Lake District as a national heritage; and how the popularisation of motoring during the interwar period paradoxically brought a vogue for open-air activities and a renewal of Romantic pedestrianism. It was verified that the Romantic spirit has paved the way for contemporary attitudes to landscape, environment, travel and cultural heritage.

研究分野：イギリス・ロマン主義

キーワード：ワーズワス 英国湖水地方 交通革命 大衆旅行 自然保護運動 文化遺産 ロマン主義的精神

1. 研究開始当初の背景

代表者はこれまで、19世紀英国湖水地方における文学観光の発展と詩人ワーズワスの受容との互恵関係について研究を進め、ワーズワスの自然観・美意識が、ガイドブックという媒体を通して旅行者の感受性を涵養し、19世紀を通じて湖水地方の文化的景観を形成していく様を検証してきた。この研究過程で、交通網の発達によってもたらされた大衆旅行は、湖水地方観光の卑俗化・商業化などの弊害をもたらす一方で、詩人の自然観・美学をより広範な旅行者に浸透させ、貴重な湖水地方の景観を守ろうという世論を高めていくことに貢献したのではと考えるようになった。

環境文学批評においては、これまでワーズワスに現代の環境思想の源泉を探ろうとする傾向があったが、近年では、スコット・ヘスをはじめ、ワーズワスの自然観はエコロジカルというよりは多分に中産階級的な美学・文化的な意味を負わされているという見方も出てきている。こうした意見に賛同しつつ、代表者が掘り下げたいと考えたのは、この文化的景観の保護を求める機運が、20世紀中葉までに広く国民全体に行きわたった背景は何かという点である。19世紀に隆盛を見た湖水地方における文学観光が、文化的景観を保護しようという考え方を醸成し、ナショナル・トラスト運動などに繋がったのだとすれば、この動きは20世紀にはどのような広がり、変容、展開を見せるのか、これを交通網の発展、戦争と国家意識の高まり、田舎ブーム、文化遺産といった観点から探りたいと考えた。

2. 研究の目的

19世紀、ワーズワスの影響のもとに発展した文学観光によって徐々に形成されていった英国湖水地方の文化的景観は、鉄道や自動車の流入による旅行の大衆化・商業化と、都市化の加速や戦争による国民の田園観の変化や文化遺産に対する意識の高まりなどによって、次第にその意味合いを変容させていく。そうしたなかで個人の自由と独立、自然と人間精神との調和的交流を重んじるワーズワスの自然観・旅の美学はどう継承されたのか。大衆旅行・商業主義に強く反対したワーズワスの精神が、いかにして大衆文化・産業資本主義・戦争・科学技術の時代にも生き残って、湖水地方の文化的アイデンティティを今なお支え続けるに至ったのか、そのメカニズムについて考察し、それを通じてロマン主義文学が現代社会における文化的価値観の構築にどう影響してきたのかを探った。

3. 研究の方法

19世紀半ばから第二次世界大戦前までを研究対象とし、3つのサブテーマを設定して研究を進めた。資料は購入の他、図書館相互利用制度やインターネット・アーカイヴを通して入手した。また、国際学会出席のために渡英した際に、大英図書館、スコットランド国立図書館を利用した他、地方新聞についてはケンダル図書館、手稿についてはケンダル公文書館やワーズワス資料室などを利用して調査を行った。

(1) 湖水地方における鉄道敷設反対運動と景観保護運動の展開

新聞記事や鉄道計画書、関係者の手紙などについて調査を行い、ワーズワスによるケンダル・ウィングミア鉄道への反対表明が生み出した論争のポイントを精査し、それがその後展開される様々な鉄道反対論争に対してどのような影響を与えているのかを探った。

(2) 自動車の登場と湖水地方観光の変化

主として自動車雑誌や旅行記、旅行記事などを調査し、自動車の登場は空間認識・旅の感覚をどう変化させたのか、自動車のもたらす現代的な空間移動体験を、初期の自動車旅行者たちはいかなるイメージで語っているかを分析し、ロマン主義的言説の持つ影響力の射程の長さを検証した。さらに、それが自動車の大衆化時代にどう変容するのかも探った。

(3) 第一次世界大戦と湖水地方における文化的景観の変容

主として新聞記事を調査し、第一次世界大戦が高揚させた愛国心が、いかにしてワーズワス・リバイバルに繋がり、湖水地方における観光と文化的景観保護運動にどのような新たな意味を付与したのか、探求した。

4. 研究成果

(1) 湖水地方における鉄道敷設反対運動と景観保護運動の展開

19世紀後半における湖水地方への鉄道敷設を巡る数々の論争は、ロマン主義的エコロジーの観点から論じられることが多いが、現実にはそれは、美学と商業主義との衝突、階級間闘争、科学技術の発展への期待と懐疑、地方主義とナショナリズムなど、様々な要因が絡み合う問題である。「湖水地方は一種の国民的財産である」というワーズワスの主張は、鉄道反対派だけでなく、推進派にも援用されたことを明らかにし、湖水地方における景観保護運動、国立公園運動の複雑さを解きほぐし、ロマン主義的精神のもつ矛盾を孕んだ多面性を検証した。その成果は国際学会で発表したほか、アメリカの出版社から出された論文集 *Victorian Ecocriticism* へ寄稿によって公表した。

(2) 自動車の登場と湖水地方観光の変化

このテーマについては、リサーチを進めるにつれて広がりを見せたため、さらに3つのサブテーマに分けて探求した。その成果は3つの国際学会で発表した他、2つの国内学会誌で発表した。

初期自動車旅行者たちとロマン主義的イメージ：初期の自動車旅行者たちが鉄道反対を表明する際、また、自動車という新しい移動方法をもたらす新しい知覚、自由・独立の感覚、スピード感覚、自然との一体感などを描写する際に、いかにロマン主義的な比喻やイメージが使われているかを明らかにした。

自動車の大衆化とロマン主義的歩行主義の再評価：第一次大戦後、シャラバンやバスなどが登場して自動車が大衆化していくと、自動車旅行者と徒歩旅行者・自転車旅行者との間にどのような軋轢が生じたか、また自動車の大衆化がいかに田舎ブームを引き起こし、徒歩旅行の再評価や湖水地方の保護運動の盛り上がり に貢献したかを明らかにした。

自動車旅行と保護運動：自動車旅行が湖水地方における道路開発や観光客の行動にどういった影響を与えたか、また自動車道建設反対運動にはワーズワスの言説がいかに影響を与えているかを検証した。

(3) 第一次世界大戦と湖水地方における文化的景観の変容

第一次大戦中の湖水地方観光においては、海外からの観光客が激減する一方、国内からの旅行者が増えていったこと、また、ワーズワスの愛国的な詩の再評価が起き、これが、湖水地方を英国的な景観として保護しようという動きと結びついていったことを明らかにした。成果は大学紀要に発表した。

(4) 全体のまとめ

これらの成果をまとめて、*William Wordsworth and Modern Travel: Railways, Motorcars, and the Lake District, 1830–1940* (Liverpool UP, 2020) を上梓した。この本の出版を受けて、2020年夏には国際ワーズワス学会に講演者として招待されていたが、これはコロナ禍のため中止となった。かわりに、ワーズワス・トラストから招待され、zoom でこの本について紹介する講演を行った。また、2021年5月には日本英文学会でシンポジウム「モビリティの詩学 交通手段の拡大と変容する空間意識」を企画し、自身も「モビリティと空間/環境意識 Wordsworth から自動車・自転車の時代へ」と題して発表を行った。

(5) その他

本研究課題と関連し、イギリスの2団体（環境保護団体、資料館）、日本の3団体（美術館、文化交流団体、大学）から依頼されて、湖水地方の文化的景観や山道の保護についてのエッセイを寄稿したり、ワーズワスの詩と湖水地方観光の関連性についての展示で解説を行ったり、学生向けに自動車と環境保護についての講演を行ったりした。研究成果を一般社会に還元できた点で意義深い。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 吉川朗子	4. 巻 12
2. 論文標題 道のパラドクス ロマン主義的観光と自然保護	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 英文学研究支部統合号	6. 最初と最後の頁 213～220
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 YOSHIKAWA Saeko	4. 巻 51
2. 論文標題 Duddon Sonnets and Duddon Tourism	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Wordsworth Circle	6. 最初と最後の頁 104～119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1086/708152	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 吉川朗子	4. 巻 44
2. 論文標題 Jessica Fay, Wordsworth's Monastic Inheritance: Poetry, Place and the Sense of Community	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 イギリス・ロマン派研究	6. 最初と最後の頁 57～61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 吉川朗子	4. 巻 43
2. 論文標題 「自動車の詩学 道をゆくロマン主義」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『イギリス・ロマン派研究』	6. 最初と最後の頁 31-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉川朗子	4. 巻 68.1
2. 論文標題 ワーズワスと第一次世界大戦 愛国心、戦没者追悼、景観保護	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神戸外大論叢	6. 最初と最後の頁 37-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Saeko Yoshikawa	4. 巻 23.3
2. 論文標題 Cecilia Powell, Excursion to Wordsworthshire: A Victorian Family in the Lakes (Grasmere: The Wordsworth Trust, 2015)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Romanticism	6. 最初と最後の頁 294-296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Saeko Yoshikawa
2. 発表標題 Water Moving through the Guide to the Lakes
3. 学会等名 'Wordsworth, Water, Writing' conference, hosted by Leicester University, UK (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Saeko Yoshikawa
2. 発表標題 Wordsworth and Modern Travel
3. 学会等名 'Disparate Romantics', hosted by the Wordsworth Trust (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Saeko Yoshikawa
2. 発表標題 Wordsworth's 'Duddon' and Lake District Tourism, 1820-1940
3. 学会等名 The 48th Wordsworth Summer Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Saeko Yoshikawa
2. 発表標題 "The Poetry of Motion: Early Motorists' Romantic Visions"
3. 学会等名 Romantic Regenerations Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Saeko Yoshikawa
2. 発表標題 "Motor Lyricism: Some Romantic Motorists in the Lake District"
3. 学会等名 The 47th Wordsworth Summer Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉川朗子
2. 発表標題 モビリティと空間 / 環境意識—Wordsworthから自動車・自転車の時代へ
3. 学会等名 日本英文学会第93回全国大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Saeko Yoshikawa
2. 発表標題 Steamboats, Viaducts, Railways--and Motorcars? Wordsworth and Modern Travel
3. 学会等名 The 46th Wordsworth Summer Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Saeko Yoshikawa	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Liverpool University Press	5. 総ページ数 302
3. 書名 William Wordsworth and Modern Travel: Railway, Motorcars and the Lake District, 1830-1940	

1. 著者名 吉川朗子、川津雅江、鈴木雅之、成田雅彦、竹内勝徳、伊藤詔子、小口一郎、金津和美、藤江啓子、植月恵一郎、スコット・スロヴィック、大野美砂(翻訳)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 320
3. 書名 トランスアトランティック・エコロジー ロマン主義を語り直す	

1. 著者名 大石 和欣、和気節子、デイヴィッド・ヴァリンズ(訳: 騎馬秀太)、直原典子、勝山久利里、藤井佳子、園田暁子、吉川朗子、アルヴィ宮本なほ子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 512
3. 書名 コウルリッジのロマン主義	

1. 著者名 Julie M. Barst; Natalie Rose Cox; Michelle J. Deininger; Sue Edney; Marlee Furhrmann; Jillmarie Murphy; Adrian Tait; Laura Dassow Walls; Akemi Yoshida and Saeko Yoshikawa	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Lexington Books	5. 総ページ数 210
3. 書名 Victorian Ecocriticism: The Politics of Place and Early Environmental Justice	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>(1) “ ‘Still Glides the Stream’: Wordsworth’s Journey Down the River Duddon”, an exhibition at the Wordsworth Museum, Grasmere, UK (2 June-12 September 2021) での展示品選択・解説。</p> <p>(2) “Wordsworth’s Walna Scar Path and Damage by Off-road Motorbikes”, The Lake District Green Lanes Alliance Newsletter, No.5 (February 2021), pp.6-8, 2021年2月</p> <p>(3) “Romantic Sentimentalism: Wordsworth, Wray, and Respect for Non-humans”, ‘Poetics as Bioethics Workshopでの講師 @九州大学 2019年10月22日</p> <p>(4) 「イギリス湖水地方、その文化的景観について」『広島日英協会々報』115 (2018年1月): 5-8.</p> <p>(5) 「ワーズワスと英国湖水地方」『紫明』41 (2017年9月): 18 - 21 .</p>

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------